

## 「いわゆるコーディネーター」について

現 行	見 直 し 案
配置が望ましい	配置が望ましい
<p>患者(夫婦)が納得して不妊治療を受けることができるように、不妊治療の説明補助、不妊治療の選択の援助、不妊の悩みや不妊治療後の妊娠・出産のケア等、患者(夫婦)を看護の側面から支援する者(いわゆるコーディネーター)。</p>	<p>患者(夫婦)が納得して不妊治療を受けることができるように、不妊治療の説明補助、不妊治療の選択の援助、不妊の悩みや不妊治療後の妊娠・出産のケア等、患者(夫婦)を看護の側面から支援する者(いわゆるコーディネーター)。</p> <p><b>【年間治療件数が500周期以上の施設】</b> <u>日本看護協会認定の不妊症看護認定看護師又は母性看護専門看護師がいることが望ましい</u></p>

未定稿

専門職種の名称	取得者数	経験年数等	目的や役割等
母性看護 専門看護師 (日本看護協会)	44名 (2013年4月 現在)	<p>&lt;経験年数&gt; 実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であること</p> <p>&lt;教育課程&gt; 看護系大学院修士課程修了者で専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得していること</p>	(目的) 複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供する。
不妊症看護 認定看護師 (日本看護協会)	127名 (2013年7月 現在)	<p>&lt;経験年数&gt; 実務研修5年以上 (うち3年以上は認定看護分野の実務研修)</p> <p>&lt;教育課程&gt; 総時間615時間以上 (共通科目:105時間以上・専門基礎科目120時間・専門科目135時間・学内演習及び実習255時間)</p>	(目的) 不妊症看護の分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践を行う。
生殖医療 コーディネーター (日本生殖医学会)	85名 (2013年7月 現在)	母性看護専門看護師、不妊症看護認定看護師の経験	生殖医療および看護における広い知識と熟練した技能、高い倫理性を備えた態度・姿勢によって、生殖医療に関わるすべての職種と連携し生殖医療チームの調整を行い、生殖医療の質向上に努める。

専門職種の名称	取得者数	経験年数等	到達目標や	認定申請の条件
体外受精 コーディネーター (日本不妊カウンセリング学会)	415名	(特段の規定なし)	<p>A. 到達目標(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖医療に関する基礎的知識を有している</li> <li>・evidenceに基づく不妊治療の基礎知識を有している</li> <li>・不妊患者の心理・社会的問題を理解している</li> <li>・不妊カップルの自立的決定を促すことができる</li> <li>・Patient Centered Care(患者中心)の考えを理解し応用できる</li> <li>・情報の適切な伝え方を知っており、それを応用できる</li> <li>・ARTのステップ、問題点、成績などについて理解しており、患者とさまざまな医療職種間をコーディネートできる(体外受精コーディネーター)</li> </ul>	<p>B. 認定申請の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記到達目標に到達していること</li> <li>・養成講座を3回以上受講していること</li> </ul>

# 「いわゆるカウンセラー」について

現 行	見 直 し 案
配置が望ましい	配置が望ましい
<p>心理学・社会学等に深い造詣を有し、臨床における心理カウンセリング又は遺伝カウンセリング等の経験を持ち、患者(夫婦)をカウンセリングの側面から支援できる技術を持つ者(いわゆるカウンセラー)。</p>	<p>心理学・社会学等に深い造詣を有し、臨床における心理カウンセリング又は遺伝カウンセリング等の経験を持ち、患者(夫婦)を<u>不妊</u>に<u>関し</u>カウンセリングの側面から支援できる技術を持つ者(いわゆるカウンセラー)。</p> <p><u>配置した者が、心理カウンセリング又は遺伝カウンセリングのいずれかの経験しか有しない場合には、他方の経験を有する者との連携体制を確保しておくことが望ましい。</u></p>

専門職種の名 称		申込資格	目的や役割等
生殖医療相談士 (日本生殖医療 心理カウンセリング学会)	2007年度 より開始	現在不妊相談を行って いる、またはこれから不 妊相談を行おうと考えて いる医療関係者(看護 職、医師、エンブリオロ ジスト等の有資格者)、 各自治体の不妊専門相 談の担当者(行政職含 む)等	(目的) 不妊に悩むカップルへの不妊相談を行う者が、患者心理の十分 な理解に基づく適切な援助スキルを習得すること。 看護職など心理職以外の者が、自身の専門性を生かしながら不 妊患者心理の特性やカウンセリングのスキルを学ぶことで、専門職 としての能力の向上に寄与する。
生殖心理カウンセラー (日本生殖医療 心理カウンセリング学会)	2005年度 より開始	臨床心理士、及びそれ と同等の心理臨床能力 及び経験を持つ者	【基礎コース】 一般心理臨床において不妊体験者をクライアントとした場合に適 切な援助が行えるよう、生殖医学及び生殖・不妊心理学の基本的 知識を習得する。また生殖・不妊の問題に専門性を持つ生殖心理 カウンセラーとしての基本必須知識を学ぶ。 【専門コース】 生殖・不妊の心理的問題に専門性を持つ心理臨床家として必要 な知識及び技能を修得する。
専門職種の名 称	取得 者数	経験年数等	到達目標や認定申請の条件等
不妊カウンセラー (日本不妊カウンセリング学会)	859名	(特段の規定なし)	A. 到達目標(概要) ・生殖医療に関する基礎的知識を有している ・evidencelに基づく不妊治療の基礎知識を有している ・不妊患者の心理・社会的問題を理解している ・不妊カップルの自立的決定を促すことができる ・Patient Centered Care(患者中心)の考えを理解し応用できる ・情報の適切な伝え方を知っており、それを応用できる ・カウンセリングに関する基礎的知識を有しており、それを応用で ける(不妊カウンセラー) B. 認定申請の条件 ・上記到達目標に到達していること ・養成講座を3回以上受講していること